

大崎上島町協議会ふるさとづくり構想

- 1 事業実施地域 広島県豊田郡大崎上島町
(とよたぐんおおさきかみじまちょう)
- 2 ふるさとづくりのテーマ 權 伝 馬一海の上の学舎(まなびや)ー
- 3 地域協議会構成員
 - ① 大崎上島町 商工観光課、企画課、農林水産課
 - ② 大崎上島町 教育委員会
 - ③ 大崎上島町議会 総務・福祉・文教及び産業・建設各常任委員会
 - ④ 広島商船高等専門学校 教職員100名、学生600名、
外航船舶職員及び海事関連事業に対応できる技術者を養成、
近隣の市町と協力連携体制を確立交流会及び体験会を開催
 - ⑤ 大崎上島連合区長会 会長1名、副会長2名、区長35名
 - ⑥ 大崎上島町商工会 会長1名、副会長2名、理事24名、会員450名
地域ブランドをひろしま夢プラザ等各地催しに出展、ビーチボールバレー
大会等親睦、地域防犯活動及び町内美化活動等実施、神峰山ウオークの側
面支援
 - ⑦ 大崎上島観光協会 会長1名、副会長2名、理事等21名、会員135
名、特産品宣伝、観光マップの作成、神峰山ウオークJRふれあいウオ
ーク共同開催
 - ⑧ FFアイランド大崎会 会長1名、副会長2名、役員等10名、
会員20名、島内生産者及び製造者集団、ひろしまFFに特産品出展、
広島からのバスツアー実施
 - ⑨ NPOかみじまの風 代表理事1名、副代表理事1名、理事等15名、
会員50名、障害児・高齢者福祉体験教室及びパソコン教室の開催、海
水浴場等環境保全活動ほか、思いやり医療講演会、商船高専との共催で
わが町のコミュニティー・バス交流会等開催

4 地域の現状、事業を実施する背景

わが島「大崎上島」の人口は、20年前に比べ5100人以上減少し、
現在では総人口が9000人弱となっている。

わが島は、他地区に先駆け進取の精神で島を支えた造船業や海運業も時
代と共に衰退し、柑橘の段々畑も耕作者の高齢化により、山林化してみか
んで栄えた往時の面影は見られない。

しかしながら「大崎上島」は瀬戸内海の中心に位置し、気候温暖にして

自然環境に恵まれた実り豊かな島であることから、この機会に島民の英知を結集してわが島に活気を呼び戻すこととしたい。

創立100年に及ぶ広島商船高等専門学校を核に学校及び地元の関係者の連携のもと、わが島の児童・生徒が次世代の地域の担い手として育まれることを目的として、島の伝統文化である「櫛伝馬」をテーマに郷土の歴史と総合的な情操教育により、郷土愛と体験活動による協働の喜びを会得させたい。

「櫛伝馬」は伝統神事であり、神事としての櫛伝馬競争を保存しつつ、島外住民が海の伝統文化を体感できる機会を作るため、新たに交流レースや体験コースを創生して、常日頃から交流体験希望者が参加し、島民の暮らしと触れ合うことのできる滞在型生活観光の基礎を構築して参りたい。

こうしたことにより、当面、島外から児童・生徒を中心に櫛伝馬祭りに招くなど、交流体験ツアーを実施し、島の良さを見て知って体感してもらう中で、島民と一緒にあって、島に埋もれたあるいは忘れられた資源を今一度掘起こすなど、新たな地域力発掘の起爆剤とし、島民の島への誇りを取り戻したい。

また、櫛伝馬にまつわる海の伝統芸能・文化は、瀬戸内海の島嶼部、沿岸部を中心に西日本各地に伝承されてはいるものの、少子高齢化の中で、規模・内容等をそのまま継承するには厳しい局面にある。

こうした中で、往時に近いそのものを伝承している地域である大崎上島が櫛伝馬文化の中核として、全国各地から往時を偲ぶ人々が集い、触れ合うメッカとなり、四方海に囲まれた日本の伝統文化の一つを守り育てる先導的な地域になることを目指す。

5 事業の概要

- (1) 「櫛伝馬」を通じて島の担い手（若者）の育成
 - ① 島の児童生徒を中心に、体験・体感活動により協働の喜びを体得する。
 - ② 郷土史等を再整理したうえで、歴史・伝統から学び、郷土愛を育む。
 - ③ 島の郷土意識を共有することにより、地域の連帯感（和）を育む。

- (2) 「櫛伝馬」にまつわる歴史・伝統の再整理
 - ① 起源及び伝承の記録整理
 - ② 地域ごとの神事及び行事の記録整理

- (3) 「櫛伝馬」による交流促進
 - ① 島外からの児童生徒に「櫛伝馬」の体験会を催す。
 - ② 児童生徒及び保護者と島での体験交流を図る。

- (4) 地域連携交流による滞在型生活観光

- ① 権伝馬祭りを中心とした、交流体験ツアー等の実施
- ② 島の暮らしを見て知って体験してもらう。
みかん、ブルーベリー見学、多島美ハイキング、魚釣り等
- ③ 船舶乗船体験，和船・ボート・カヌー・ヨット等の操船体験
- ④ 権伝馬レースへの参加

(5) 全国的な事業展開

- ① 歴史的繋がりのある地域による「権伝馬サミット会議（仮称）」の創設
- ② 「権伝馬シンポジウム」等の定期的開催
- ③ 全国大会「権伝馬レース」の定期的開催

以上のとおり，全国に誇れる，島民が丹精して作った減農薬のみかんやレモン等特産物の販路拡大や広島商船高等専門学校の施設等を活用した洋上体験など，既存施設・技術・製品の有効活用を図りながら，大崎上島ファンを拡大し，交流・体験事業等の事業化を促進する。

6 事業実施により期待される効果

- ① 権伝馬をテーマにわが島の誇りを取り戻し，島民が生き生きと、交流体験・移住体験ツアーなどの事業化に取り組み，新たな地域連携を図る中で，交流人口が増加し，ひいては島内の定住人口の維持・確保につながる。
- ② 遊休・円熟（高齢者耕作限界）農地の活用や空き家の有効活用を図り，島内の有形無形の資源を有効活用し、瀬戸内海の島嶼部における自立生活圏創生に向けたモデル的地域となりうる。

7 過去の実績等

海山の交流体験

東野小学校と大朝小学校での姉妹校交流事業（現北広島町）

木江小学校と高野小学校での姉妹校交流事業（現庄原市）

因島水軍ふる里まつり「小早レース」競漕運営指導

「権伝馬・まきはだ船」の全国博物館への展示

FF（フルーツ&フィッシュ）アイランド大崎会によるツアー実施など

広島商船高等専門学校での公開授業（洋上体験サマースクール等）